

摘 錄

○清水文彌 郷土史話の一部 發行所 邦光堂

Geography of South America, ハーバ大學地質學の Gregory 教授並に Kelle, Bishop 氏合著の Physical and Commercial Geography 等名著少なからず、極く通俗な經濟地理又は商業地理と銘打したる出版物に至つては、殆ど枚擧に遑がない、各大學などで發行する報告類に掲載する論文の他、クラーク大學では近時同大學に於ける經濟地理研究の機關として、雜誌 Economic Geography を發行し、一昨年(一九二五)の創刊、W. Elmer Ekblaw 教授主幹の下に、年四回發行されて居り、著書や雜誌計でなく、經濟地理に關する地圖も段々と發行され、シカゴ及び紐育の Rand Mc Nally 社より出版する Commercial Atlas of the United States(1924)を初め、マシントン府の印刷局 Government Printing Office 出版の Statistical Atlas of the United States. 又シカゴ市の A. J. Nystrom & Co. 出版の Nystrom international trade maps 等何れも好參考圖であり、殊に最後の Nystrom international trade maps の如きは、小形の圖であるに拘はらず、經濟地理研究上好參考書たるを失はなす。

尙米國の地理學界としては、述來の大學地學教室以外に、紐育に在る、地學協會を初め、各地の地學協會、ワシントン府にありて、National Geographic Magazine を發行する、National Geographic Society の如き、フィラデルフィア府に在る Commercial Museum の如き、紐育、シカゴ等に在る、地圖製作刊行所等地理關係機關に付て述べる必要もあると思ふが、此等は後日に譲り此の稿を終ることとする。(完)

古い家屋はこれを建て直す場合に柱などのホツを見ると、そこに其建てた時代の年號千十二支が記されてある、那須八郎時代(下野那須)のオサ受の圖面が未だに残つてゐるが、これによると遠い源平時代の昔から今日の結構の家があつたらしい。昔の家は柱は斧で削りつばなし、又ちよう能で打ちばなし、材木は主として栗或は杉、梁は杉の丸身の角、屋根は草ぶきが多かつた、そしてその屋根の葺方は一般に冠り屋根名主以上はセカイ造り(注この建方江州の北から北陸に共通する)割元庄屋及郷土は二重セカイ造を許されたものである(慶安時代には寺でも民家でも皆小さかつた、そして極く古くは堀つ立て、礎石を使用するやうになつたのは徳川の初め頃からであらう、大きな家を建てるやうになつたのは天保あたりからの事である。(拙著近刊日本民家史参照を乞ふ)。我が那須地方では昔から渡邊といふ苗字の家では家の屋根に「烟出しを付けない風習が残つてゐる。(屋根概説参照)、これは昔源頼光の時代に、羅生門で鬼を退治した渡邊の綱が、折角とつた鬼の片腕を再び鬼に取りかへされた有名な話から來た迷信で、鬼がこの屋根の烟出しから逃げたからである。こんな譯から渡邊姓の家では烟出しを付ける事を忌んだらしい。(筆

者曰くこの話は下野國那須郡の風習であるが、同じことが丹波南条大井村渡邊氏の家にも共通してゐる。地方史話のこゝしたのものゝ出版を歓迎する。又この地方の農業に關しては、年の暮から春になつて暖くなるか霧がかかれは其年は不作、正月雪がふれば豊作。雪がふらぬ年は天災がある、コブシの花盛りは苗代の時期、ウヅキに花がさけば大豆蒔。ツ、シの一種ツツキの花盛が田植のさかり、南天の花満開なれば入梅百日紅が多くさけば満作、舊八月十五日夜月がさゆれば來年の大麥大當り、舊九月十三日夜月がさゆれば來年の小麥大當り、などゝいつてゐるのも面白い。氣候と農業の關係が明に理解される。又那須では天候を知るのに生石イシイシを用ひた、河原にある青色の滑べつこい石でこの石を各戸の庭に据へ、石の表面が濡へば雨、乾けば晴天としたとある。(藤田)

○長谷部言人 歐羅巴人 (自然人類學概論の一節)

歐羅巴人は左の四型の人類に屬する個體の混合で尙東方ではアシア、小アジア人種の影響をうくること著しい複雑なる人種象を呈する。即歐洲諸國人は夫々多少配合を異にする人種複合團にすぎずしてケルト、ゲルマン、スラヴなどの區別は單に其言語と文化を異にするだけで共通の型がある。第一は北方型、北、北西、中部歐羅巴に多い、密集地は瑞典と蘇國に高く平均一七三割、四肢長く頭は長く狭い顔も長く狭く鼻は高く彎曲せず或は骨と軟骨の堺で少しく曲り、顎は前方に

出る、頭髮は金髪皮膚が白い、新石器時代の北方長頭種に相當する。第二、地中海型これは地中海沿岸に分布し、西、葡伊に密集し、希臘に及ぶ、丈ひく、頭が小さく平均一六一割頭狭く長く顔狭く卵形をなし、鼻は北方型よりも小さく、幅は廣いが鼻梁眞直で稍高い希臘鼻をもつ、毛は濃色、黒に近く皮膚にも色がある。第三アルプス型は中央アルプス地方で佛國の南西、中部に密集する、身長中等平均一六三割、前二者とちがつて短頭。前頭直立し、後頭豐滿にして餘り突出せず、顔は廣く圓く、額は尖り、鼻幅廣く短く且つ少し中凹である、第四のテイナル型、これはユーゴスラヴィア、バルカン地方に分布し、身長大にして平均一六八乃至一七二割短頭、後頭高く扁たく削り落したやうに見える。顔長く頑強殊に大きな曲つた鼻所謂鷲鼻を有し頭髮は織柔黒褐色、髭が濃い。

歐羅巴の諸民族はいづれも此四種の中少くとも三種或は總てより組合され、只其割合が夫々異なるに過ぎない、アシアの住民は概してモンゴロ型で短頭又は中頭、身長平均一五〇割、乃至一七〇割、額骨秀で、鼻根低く、幅廣く扁たく、上眼瞼の内眥に近き部分が、皺襞をなしてこれを蔽ひ蒙古眼となる、頭髮黒くして剛直、皮膚は黄褐色、蒙古人種をもつ、印度には歐人に似た鼻の狭い頭髮の黒いものと、長頭にして皮膚黒褐色なるドラヴィダが居るが、これと歐人との關係がいかゞであるかは未だ明にされてゐない。(F)